

「社会意識に対する世論調査」結果

●いまの社会についての意識調査

内閣府では、社会や国に対する国民の基本的意識の動向を調査し、広く行政一般のための基礎資料とするために「社会意識に対する世論調査」を今年1月～2月にかけて実施しました。国民は社会の現状について、どのように感じているのでしょうか。今回は、同調査の主な結果についてみていきます。

●社会の役に立ちたいと思う人が65.4%

「社会意識に対する世論調査」は、無作為に抽出した全国の18歳以上の日本国籍者10,000人を対象に、平成29年1月19日～2月5日の期間に実施（調査員による個別面接聴取）されました。有効回収数は5,993人（回収率59.9%）です。

調査項目は1.国や社会との関わりについて 2.社会の現状に対する認識について 3.国の政策に対する評価についての3項目です。

まず、1.国や社会との関わりについて、「国を愛する気持ちの程度」について尋ねたところ、他人と比べて「強い」とした人の割合が55.9%（「非常に強い」16.1%と「どちらかといえば強い」39.8%の計）、「どちらともいえない（わからない）」が38.1%、「弱い」が6.0%（「どちらかといえば弱い」5.3%と「非常に弱い（全くない）」0.7%の計）でした。

「社会への貢献意識」について、日頃、社会のために役立ちたいと思っているかどうかを尋ねたところ、「思っている」が65.4%、「あまり考えていない」が32.1%となりました。

●生活環境に満足、経済的余裕と見通しに不満

2.社会の現状に対する認識についての項目では、現在の社会において満足している点は「良質な生活環境が整っている」(43.2%)が最も割合が高く、以下、「心と身体の健康が保たれる」(27.0%)、「向上心・向学心を伸ば

しやすい」(17.8%)、「人と人が認め合い交流しやすい」(17.1%)、「働きやすい環境が整っている」(15.7%)、「熟年・高齢者が社会と関わりやすい」(14.7%)などの順となりました。

一方、満足していない点は、「経済的なゆとりと見通しが持てない」の割合が43.0%と最も高く、以下、「若者が社会での自立を目指しにくい」(35.5%)、「家庭が子育てしにくい」(28.7%)、「働きやすい環境が整っていない」(25.2%)、「女性が社会での活躍を志向しにくい」(24.5%)、「熟年・高齢者が社会と関わりにくい」(23.3%)などの順となりました。

●国政に民意が「反映されている」は34.6%

3.国の政策に対する評価については、国の政策に国民の考えや意見が「反映されている」の割合が34.6%（「かなり反映されている」1.9%と「ある程度反映されている」32.7%の計）、「反映されていない」が62.1%（「あまり反映されていない」50.6%と「ほとんど反映されていない」11.6%の計）となりました。

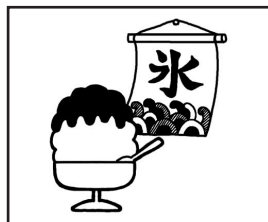
また、現在の日本で、良い方向に向かっていると思われる分野は「医療・福祉」が31.4%と最も高く、以下、「科学技術」(25.8%)、「治安」(22.0%)、「防災」(21.2%)などの順となりました。

悪い方向に向かっている分野は、「国の財政」が37.1%と最も高く、以下、「地域格差」(28.5%)、「防衛」(28.2%)、「景気」(27.4%)、「外交」(26.7%)などの順でした。

「社会意識に関する世論調査」結果は、内閣府ホームページ (<http://survey.gov-online.go.jp/h28/h28-shakai/index.html>) より概略版の全文がご覧いただけます。なお、世論調査についてのお問い合わせは、内閣府大臣官房政府広報室 世論調査担当(03-5253-2111)までお願いします。

COFFEE BREAK

気温が上がリ、ひんやり冷たいかき氷が恋しい日々が続いています。ここ数年は、天然氷を使ったものをはじめ、台湾発のふわふわかき氷などが人気ですが、今年はなんと水を使わないかき氷が登場。産地や味などを厳選したメロン、イチゴなど旬のフルーツの果汁を凝縮し、かき氷にしたもので、果物



進化するかき氷最前線

本来の濃厚な甘みや味わいを贅沢に楽しめるそうです。また、野菜菓子専門店からは、ミニトマトやアボカド、イチジク、ほおずきなどユニークな素材のかき氷も台頭。かつては夏の風物詩として素朴な存在であったかき氷ですが、いまは新食感スイーツとして進化を続けているようです。